

令和5年度千葉市遺跡発表会スケジュール

時間	発表タイトル等	発表者 氏名・所属	備考
10:20～10:30	開会挨拶		10:00 開場
午前の部 講演			
10:30～12:00 (90分)	千葉市内最古の縄文土器の発見と意義 —坂ノ越遺跡出土土器の特徴と由来— <small>さかのこし</small>	阿部 芳郎 先生 明治大学文学部教授	
12:00～13:00	昼食休憩		
午後の部 成果報告			
13:00～13:40 (40分)	特別史跡加曾利貝塚発掘調査速報成果	服部 智至 千葉市教育委員会文化財課 濱 秀輝 千葉市埋蔵文化財調査センター	
13:40～14:20 (40分)	和唐地遺跡の調査成果	長谷川 秀久 株式会社ノガミ	
14:20～14:40	休憩		
14:40～15:20 (40分)	千葉焼はあった！？	岸本 高充 千葉市埋蔵文化財調査センター	
15:20～16:00 (40分)	大宮作遺跡と砂子遺跡の調査成果	小林 嵩 公益財団法人千葉市教育振興財団	
16:00	閉会		16:30 閉場

【講演・成果発表のポイント】

- 講演「千葉市内最古の縄文土器の発見と意義 坂ノ越（さかのこし）遺跡出土土器の特徴と由来」
坂ノ越遺跡（緑区あすみが丘）は縄文時代早期後半（今から約8千年前）を中心とした遺跡で、1979年に発掘調査が実施されています。出土した土器の中により古い時代の特徴を持つものがあり、再検討した結果、縄文時代草創期後半（今から約1万1千年前）まで遡り、市内最古の縄文土器であることが明らかになりました。その発見の経緯や同時期の他地域との関係性等についてご講演いただきます。
- 特別史跡加曾利貝塚調査速報
今年度から新たに着手した北貝塚の発掘調査の成果を発表します。昭和37年に行われた発掘調査地点の再発掘の成果と合わせ、新たに発掘調査を行った範囲で見つかった縄文時代後期（今から約4千年から3千年前）の住居跡に伴う柱穴群等について報告します。
- 「和唐地遺跡の調査成果」和唐地（わとうじ）遺跡（中央区星久喜町）
弥生時代から近世にまで至る調査成果のうち、主要な調査成果である弥生時代中期後半（今から約2千年前）の環濠（かんごう）をともなう集落跡、古墳時代前期後葉（今から約1千6百年前）から中期前半（今から約1千5百年前）の集落跡・古墳について報告します。

4 「千葉焼はあった!？」

南河原坂窯跡群（みなみかわらさかかまあとぐん）・坂ノ越遺跡（いずれも緑区あすみが丘）他
奈良時代から平安時代にかけて、緑区土気の南河原坂窯跡群・坂ノ越遺跡をはじめ、千葉市域は多くの土器を焼く窯を有する焼き物の盛んな地域でした。「千葉焼」ともいえる焼き物の生産がなぜ現代まで存続しなかったのか、千葉県全域を含めた土器生産遺跡を紹介しながら考えます。

5 「大宮作遺跡と砂子遺跡の調査成果」

大宮作（おおみやさく）遺跡（中央区宮崎町）・砂子（すなご）遺跡（稲毛区作草部町）

大宮作遺跡は今回初めて発掘調査が行われ、奈良時代の竪穴住居跡や中世（15世紀頃）の土坑群・貝層などが見つかりました。周辺の遺跡の調査成果を参照しながら、その成果を報告します。

砂子遺跡はこれまで3回にわたる発掘調査が実施され、奈良時代から平安時代にかけて比較的大きな集落が広がっていたことが分かっています。今回の発掘調査でも新たに奈良時代の竪穴住居跡が3軒確認されました。